
恋愛革命～佐藤歳男君～

来々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋愛革命～佐藤歳男君～

【Zコード】

Z7340B

【作者名】

来々

【あらすじ】

このお話は、1人1章ずつ書いた、簡単なリレー小説です。物書きが趣味の3人組。皆集まれば、いつのまにやら物語が始まります。今回は、ある男の、それはそれは不愉快なお話。

序章 1. 探索

主人公 佐藤 歳男

読み方 さとうと しお

職種 引きこもり

女性の趣味 2次元

この本について、『来々』、『黒い3年生』、『垢い水星』の3名によるリレー小説。

執筆時間 1人20分。

内容 なんか……、ゴメンなさい。

それではお楽しみ下さい。

序章 1) 摂摺 (後書き)

皆さん、こんばんは。来々です。今回は、仲間を呼んでみました。なんか大変な事になつてますよね。なんかごめんなさい。でも、また機会があつたら、この3人で書いてみたいと思っています。『黒い3年生』君、『垢い水星』君。20分という短い時間で仕上げてくれて、どうもありがとうございました。また、この来々にご協力下さいませ。長くなつてしましました。次の作品もご期待下さい。来々でした。

垢い水星パート

今日の朝ご飯。

我が城、『歳男ルーム』にて、PCのディスプレイを見ながらカツラーメンをする。1つは株価の変動を映し出し、1つはチャットの画面が、そしてもう1つには有名なゲームが映されていた。もう1年はこの家から出でていない気がする。でも株でもうけているから何も不自由しない。

しかし、今日は外へ出ないといけない。4台目のPCが壊れているので、直すために部品を買わなくてはいけない。そして、スープを飲みほして、部屋から出る。良い部品を買うには秋葉原がやはり良い。

黒い3年生パート

向かう先は東京駅。最寄りの赤羽駅から山手線で15分くらい。それにしても、この『人ゴミ』というものが嫌いだ。腹が立つ。人にぶつからなければ歩けないなんて、この人々はいつたいどこからわいてくるのだろう。けつこう昔から抱いていた疑問の1つだつたりもする。赤羽でキップを買って、それから自動改札を出る。人にぶつかつた回数、計4回。コンクリートのかたい感触を踏みしめながらホームに出た。やつぱり人。

人々が、きちんと整列し、電車を待っていた。いや、2分間隔で来る電車を

「待つ」というのは、少しおかしいかもしれない。そんな事を、ボンヤリと思っていた。

来々パート

どうにかこうにか秋葉原に着いた。前のパートに何か色々書いてあ

つたが着いた。一人には申し訳ないけど、着いたモンは着いた。ゴメンね。

目的地に行く途中も、人とぶつかる。荒い波に揉まれながらも歩き続けていたその時、（「荒い波に揉まれる」という言葉は、「荒い彼に揉まれる」に見える。）何度もわからぬが、また人にぶつかった。いかにもドジそうな可愛い顔をしている。ぶつかったヤツは、すぐに立ちあがり、「ごめんなさい」と頭を下げてきた。

男らしく、

「いいよ、気にしてないから」と言つた時に見えた笑顔は、背景が真っ白で可愛かった。軽くお辞儀をして、ぶつかったヤツは走り去つて行つた。参つたなあ。背中も輝いてるぜ。

買い物を終えて、あの笑顔を思い出す。

惚れたかもしれない。

あんなに可愛いキャラクターのTシャツがあつたなんて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7340b/>

恋愛革命～佐藤歳男君～

2010年10月11日04時32分発行